学校番号	１０８

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	理系数学演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	改訂版　シニア 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C〔ベクトル〕受験編（数研出版） 新課程　大学入学共通テスト対策／基本と演習　数学Ⅰ･A＋Ⅱ･B･C 標準演習 PLAN 100（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・予習・講義・復習というサイクルを重視し、授業を進めていく。
・講義においては、一方的な講義形式ではなく、生徒同士が教え合いをする、グループで活動をする、発表するなど、生徒同士が主体的に活動できる場を多く取り、自主的・自発的に学習を促進する。
・問題を自分で解けるようになること、社会での数学を知ることなどで「数学は楽しい」と思えるので、最後まで諦めずに取り組んで行きましょう。

2　学習の到達目標

(1) 数学Ⅰ，数学A，数学Ⅱ，数学B，数学C(ベクトル)における内容の理解を深めさせるとともに，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
(2) 数学について認識を深め，事象を数学的に論理的に考察する能力を培う。
(3) 数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数学の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学的な活動を通して，学習内容における数学的な見方や考え方を身につけ，論理的に考えるとともに，多面的・発展的に考える力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

1	数学Ⅰ	数学Ⅰの問題演習	a:基本事項を理解し，問題の解法が定着している。 b:題意を的確に把握し，論理的に表現できる。 c:得意・不得意を明確にし，得意な内容の定着と不得意な内容の克服に努める。	考査 小テスト	考査 小テスト 授業中課題	授業中課題 家庭学習課題
	数学A	数学Aの問題演習	a:基本事項を理解し，問題の解法が定着している。 b:題意を的確に把握し，論理的に表現できる。 c:得意・不得意を明確にし，得意な内容の定着と不得意な内容の克服に努める。	考査 小テスト	考査 小テスト 授業中課題	授業中課題 家庭学習課題
2	数学Ⅱ	数学Ⅱの問題演習	a:基本事項を理解し，問題の解法が定着している。 b:題意を的確に把握し，論理的に表現できる。 c:得意・不得意を明確にし，得意な内容の定着と不得意な内容の克服に努める。	考査 小テスト	考査 小テスト 授業中課題	授業中課題 家庭学習課題
	数学B	数学Bの問題演習	a:基本事項を理解し，問題の解法が定着している。 b:題意を的確に把握し，論理的に表現できる。 c:得意・不得意を明確にし，得意な内容の定着と不得意な内容の克服に努める。	考査 小テスト	考査 小テスト 授業中課題	授業中課題 家庭学習課題
3	ベクトル	ベクトルの問題演習	a:基本事項を理解し，問題の解法が定着している。 b:題意を的確に把握し，論理的に表現できる。 c:得意・不得意を明確にし，得意な内容の定着と不得意な内容の克服に努める。	考査 小テスト	考査 小テスト 授業中課題	授業中課題 家庭学習課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度